
蒼い独りの月光

Josh Surface

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蒼い独りの月光

【Nコード】

N2473U

【作者名】

J o s h S u r f a c e

【あらすじ】

自ら望む者と逃れられぬ者。蒼き月の光だけが運命を辿る。

悲愴001楽章

亡き母が残した苦痛――。

俺は二人の曲に呪われている。まるで記憶は遠い世界を映す蜃気楼のようだ。そして、すべての人間が人としての魂を売り飛ばした時、俺は人間であることを辞めた――。

1959年（昭和34年）10月8日 深夜

国立東京第一病院 ？第三病棟？

再び咳を繰り返す初老は、白髭の上に血を散らしながらうわ言のように何かを呟いている。衰弱しきつたその体から発せられる言葉は、もはや誰にも理解できない。黒衣の男を除いては――。

「あ…あ…あなた…か？」

初老は黒衣の男の存在に気づき、病室のカーテンへと両手を差し伸べようとする。黒衣の男は悲壮に満ち溢れた眼差しを浮かべている。しかし、それはこの初老へのものではない。

「おおお…、な、なんてこった…。あ、出逢った時の、ま、まんまじゃないか…。」

そう、黒衣の男の浮かべている悲壮は、この初老の手によって亡き者とされた数多くの人間と、そして愛すべき凜子の無惨な死から湧き上がるものだった。

「わしは…ま、間違っていないかった…。お前は、選ばれし子…。」

涙を浮かべる黒衣の男は、瞳の奥でやり切れぬ怒りを募らせている。

「今、主に使える身となったわしは…ようやく、肉体の限界から、開放されて…うぐ!？」

素早く白く細い腕を伸ばし、初老の首元を掴み締め始めた黒衣の男は、一筋の涙を頬に伝えている。

「何が主に使える身だ…。」

「うっご!ぐっぐ!」

「貴様が30年前に与えてくれた力で、俺は今夜、人間を辞める…。」

溢れる涙を隠せない黒衣の男は、最初の力を使った。締め詰められた初老の首元からは血の気が引き、強烈な喀血を繰り返し、ついには息耐えた。

初老の名は、石井四郎博士…。

関東軍防疫給水部本部、満州第七三一部隊陸軍を指揮した元軍医中將であり、あの悪名高い人体実験を繰り返していた、『731部隊』の創立者でもあった。

翌日、10月9日。石井四郎は喉頭癌と判断され死去（67歳）。葬儀委員長は一時期、関東軍防疫給水部長に就任した北野政次だが、彼が最後に見た石井の遺体の喉元には、怨念によって引き裂かれたような切り傷があったという。

これは、悪魔に魅入られた男と、悪魔に愛された男、そして時代と

いう大海に翻弄された一人の女性による、数奇な運命を描いた物語である。

続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2473u/>

蒼い独りの月光

2011年10月8日04時37分発行